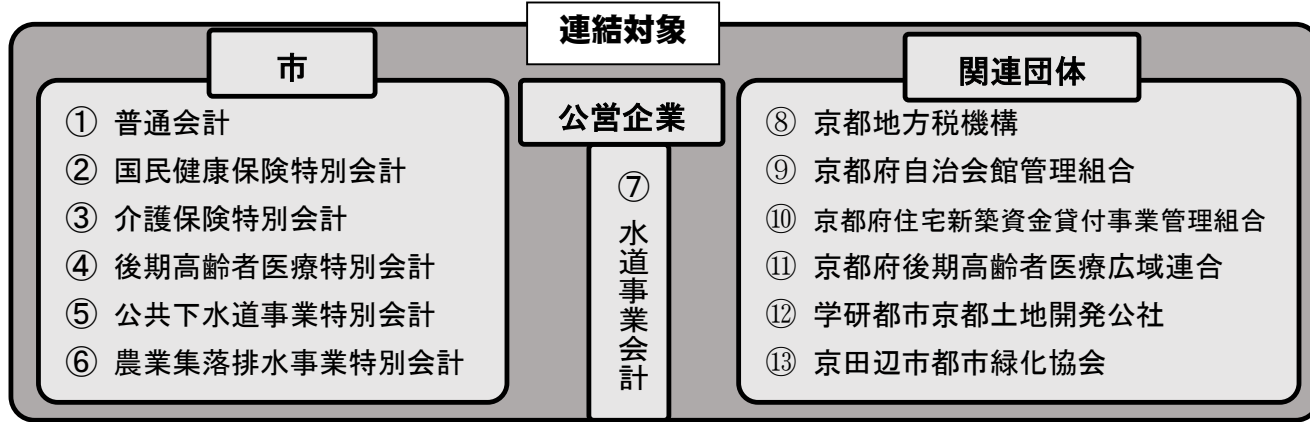


平成25年度京田辺市連結財務書類4表【概要】

連結財務書類4表は、発生主義・複式簿記の考え方をういた財務書類4表を、普通会計、特別会計や関連団体等を含めた連結ベースで作成したものです。連結範囲は以下のとおりです。



連結貸借対照表（バランスシート）

市が保有している資産（財産）と、その資産をどのような収入により形成したかを示したものです。

単位: 億円

借方				借方			
区分	25年度	24年度	増減	区分	25年度	24年度	増減
● 資産の部 市や関係団体が所有している財産の合計です。	1,533	1,526	7	● 負債の部 地方債や将来支払われる職員の退職金など、将来世代の負担で返済していく債務です。下水道事業の地方債なども合算しています。	405	410	△5
公共資産 道路や学校施設など、長期間使用されるものです。	1,360	1,361	△1	● 純資産の部 資産の形成に対して、市税などを通して現在までの世代が既に負担してきた部分です。	1,128	1,116	12
投資等 基金、出資金などです。	82	82	0				
流動資産 現金・預金などです。	91	83	8				

POINT

- ・資産は、現金等流動資産の増加などにより、前年度と比較して7億円増加しました。
- ・将来支払うべき地方債が減少したことなどにより、負債が5億円減少しました。
- ・過去現世代負担比率（資産形成における現役世代の負担割合）は82.9%となり、前年度から0.9ポイント上昇しました。将来世代の負担割合が、前年度より減少したことになります。

連結行政コスト計算書

学校、保育所やごみ処理施設の運営など、資産形成に直接結びつかない費用と収入を示したものです。

単位: 億円

区分	25年度	24年度	増減
● 経常行政コスト(A)	379	371	8
人にかかるコスト 職員の給与・退職手当などです。	53	58	△5
物にかかるコスト 光熱費や修繕、減価償却費などです。	83	79	4
移転支出的なコスト 生活保護などの社会保障給付などです。	234	223	11
その他のコスト 地方債の利子などです。	9	11	△2
● 経常収益(B) 施設の使用料や手数料など、行政サービスの提供の対価としての収入です。	140	134	6
● 純行政コスト(A-B) 経常的なコストから収益を差し引いたもので、受益者負担で賄えなかった分を示します。	239	237	2

POINT

- ・経常行政コストは、社会保障給付が増加したこと等により、8億円増加しました。
- ・行政コストに対する経常収益(受益者負担)の割合は36.9%で、前年度から0.8ポイント上昇しました。

連結資金収支計算書

1年間の行政活動に伴う現金等の資金の流れを、性質の異なる三つの活動に分けて示したものです。

POINT

- ・経常的収支は前年度より3億円、投資・財務的収支は前年度より4億円それぞれ収支が改善しました。
- ・期末資金残高は70億円となり、期首と比較して8億円の増となりました。

連結純資産変動計算書

貸借対照表のうち純資産の部の残高が、1年間でどのように変動したかを示したものです。

単位: 億円

区分	25年度	24年度	増減
● 期首(24年度末)純資産残高	1,116	1,124	△8
● 当期変動高	12	△8	20
純行政コスト 連結行政コスト計算書で算出した純経常行政コストです。	△239	△237	△2
財源調達 地方税、地方交付税、国や府からの補助金などです。	251	229	22
● 期末(25年度末)純資産残高	1,128	1,116	12

POINT

- ・行政コストが前年度より2億円増えましたが、国府補助金、地方交付税などの財源調達が前年度より22億円増となりました。
- ・期末純資産は、期首と比較して12億円増加し、将来世代の負担額は減少したことになります。

単位: 億円

区分	25年度	24年度	増減
● 期首(24年度末)資金残高	62	59	3
● 当期変動高	8	3	5
経常的収支 日常の行政活動における資金の収支です。	51	48	3
公共資産整備収支 公共事業に必要な資金と、そのための補助金収入などの収支です。	△14	△12	△2
投資・財務的収支 投資や地方債償還等の財務的な活動に関する資金収支です。	△29	△33	4
● 期末(25年度末)資金残高	70	62	8